

令和元年度「滋賀県教育委員会事務の点検・評価」に関する報告書(平成30年度実績)【概要版】

1. 滋賀県教育委員会事務の点検・評価の概要

- ・「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定に基づき、教育委員会の権限に属する事務の管理および執行の状況について、点検・評価を行う。点検・評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図る。
- ・あわせて第2期滋賀県教育振興基本計画の施策の実施状況、成果指標、事業目標の達成状況、施策の効果等について、一体的に点検・評価を行う。

懇話会において学識経験者から意見聴取

- ・小倉 明浩 氏 (滋賀大学 理事・副学長)
- ・橘 円 氏 (滋賀県PTA連絡協議会 会長)
- ・中作 佳正 氏 (滋賀経済産業協会 副会長・株式会社ナカサク 代表取締役社長)
- ・原 清治 氏 (佛教大学 副学長)

2. 滋賀県教育委員会委員の活動状況

教育委員会

- ・開催回数 14回(定例会:12回 臨時会:2回)
- ・審議件数 103件(議決案件76件、報告事項27件)

総合教育会議

- 次期滋賀の教育大綱について協議するとともに、大綱の中で特に力を入れて取り組むこととしている「読み解(力)」の育成について議論を行った。
- ・開催回数 5回

ふれあい教育対談

- 県内の小・中・高・特別支援学校、民間企業等を訪問し、学校現場等の現状や課題について視察・意見交換を行った。
- ・開催回数 8回

3. 第2期滋賀県教育振興基本計画の主な取組の成果と課題・今後の方向性

評価区分： ...H30年度目標達成、...H30年度目標未達成、-...実績値なし・集計中

未来を拓く心豊かでたくましい人づくり ~学び合い支え合う「共に育つ」滋賀の教育~

柱1 子どものたくましく生きる力を育む

【成果指標・事業目標の評価】

全14項目：○・・・5項目 ...9項目 -・・・0項目

「確かな学力」を育む

平成30年度の全国学力・学習状況調査の結果をしっかりと分析し、更なる授業改善や少人数学級編制によるきめ細かな指導等を行うことにより、子ども一人ひとりの基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るとともに、これからの時代に柔軟に対応できるよう「読み解(力)」の育成に取り組む。また、新学習指導要領の全面实施を見据え、小学校英語教育の早期化への対応として教員の指導力・英語力の向上を図り、小・中・高と系統的な指導を進めていく。

お互いの人権を尊重する心や態度の育成

自尊心を高める取組によって、「自分にはよいところがある」と回答した児童生徒の割合は年々増加している。引き続き一人ひとりを大切に自尊感情の育成に取り組むとともに、特に困難な状況にある子どもについては、関係機関と連携した支援の充実を図る。また教職員の指導や人権感覚を高める取組を進めていく。

健やかな体を育む

健全な心身を育むため、望ましい食習慣の習得や生活習慣の改善に向けて、食に関する指導を充実し、朝食欠食率の減少に取り組んだり、体験から食の大切さを学んだりしながら、食育の推進に取り組んでいく。

環境学習の推進

平成30年6月に、環境に配慮した電気推進船として、二代目「うみのこ」が就航した。琵琶湖をはじめとした豊かな自然や地域資源を生かした環境学習の取組を推進していく。

共生社会の実現に向けた多様なニーズに対応する教育

障害のある子どもとない子どもが共に学ぶインクルーシブ教育システムの構築に向けた取組を進めるとともに、増加傾向にある日本語指導が必要な外国人の子どもへの学習支援として、教員の資質向上や母語支援員の拡充等、支援体制の充実を図っていく。

多様な進路・就労の実現

「中学生チャレンジワーク」や、高校生のインターンシップ等の取組を進めた。引き続き地域の企業と連携しながら、体験を重視した活動を進め、系統的なキャリア教育の推進に取り組んでいく。また、特別支援学校の生徒が就労意欲を高め、技能を身に付けられるよう「しごと検定」等の取組を進めた。生徒の社会的・職業的自立につながるよう、企業との連携を深めていく。

【学識経験者からの主な意見】

- ・確かな学力を育むため様々な取組が行われていることは評価するが、個々の取組が改善につながるようしっかりと取り組んでいただきたい。(関連)
- ・アクティブ・ラーニングやプログラミング、英語教育など、新学習指導要領への対応として、滋賀の強みを生かしながら、教員の能力開発をしっかりとお願いしたい。(関連)
- ・滋賀のこともっと子どもたちに教えていくこと、また子どもが自分たちで作ったものや知識を活用して、自分たちの学校に貢献できるような体験をさせることで、滋賀の自然や地域と共生する力、たくましく生きる力を育てられるのではないかと。(関連)

柱2 子どもの育ちを支える環境をつくる

【成果指標・事業目標の評価】

全8項目：○・・・5項目 ...2項目 -・・・1項目

魅力と活力ある学校づくり

学校再編統合校である長浜北高校でのコミュニティ・スクールの推進や、スーパーサイエンスハイスクールやスーパーグローバルハイスクール等、各高校において特色ある取組の実施と普及を図った。今後、生徒数の減少が見込まれる中、学校の強みや地域性を生かした特色ある学校づくりを一層進めていく。

教職員の働き方改革

スクール・サポート・スタッフや部活動指導員の配置支援、県立学校における学校閉庁日の試行導入など、学校現場の働き方改革に向けた取組を進めた。子ども一人ひとりと向き合う時間を確保し、教育効果を高めるため、引き続き「学校における働き方改革取組計画」に基づく取組を進めていく。

全ての子どもにとって居心地のよい学校づくり

いじめの早期発見・対応を図るため、スクールカウンセラーを全ての公立学校へ配置・派遣を行い、小学校重点配置校を25校から30校に拡充した。またスクールソーシャルワーカーを19市町に配置し、子どもが過ごしやすい環境づくりに努めた。引き続き学校の指導体制の充実を図るため、外部専門家を有効に活用するとともに、子どもの自主的な活動を推進していく。

安心・安全な学校整備

全ての県立学校への空調整備を進めるとともに、数不足への対応としてトイレ改修を行うなど、学習環境の改善に取り組んだ。引き続きこうした改善に取り組むとともに、学校施設の老朽化対策として、長寿命化対策を計画的に実施していく。

社会全体で子どもの育ちを支援する取組

「家庭教育協力企業協定(しがふぁみ)」による家庭教育を社会全体で支援する環境づくりや、学校と地域の連携した取組を進めるため、地域学校協働本部およびコミュニティ・スクールの設置を推進した。学校と地域が目標を共有しながら、持続可能な連携・協働による活動を充実させていく。

【学識経験者からの主な意見】

- ・魅力ある学校づくりに向け、滋賀県の大学には、民間出身で技術的に実践的なことに知見のある先生が多いので、しっかりと連携して取り組んでほしい。(関連)
- ・学校現場の働き方改革を進める一方で、教員の質を高めるために研修機会の確保が大切であるため、スクールソーシャルワーカーや部活動指導員等の拡充が必要である。(関連)
- ・いじめへの対応は、教員だけではなく、警察等の第三者を学校に配置して対応すべきではないかと。(関連)

柱3 すべての人が共に育ち、社会を創る生涯学習を振興する

【成果指標・事業目標の評価】

全4項目：○・・・1項目 ...2項目 -・・・1項目

生涯スポーツの振興

競技力の向上や子どもとスポーツチームとの交流機会の創出、スポーツボランティアの育成に取り組んだ。ワールドマスターズゲームズ2021関西や第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会の開催を見据えて、年齢・性別・障害の有無にかかわらず誰もがスポーツに取り組むことができる機会づくりに取り組んでいく。

文化財の保存・継承と魅力発信

豊かな歴史に育まれた豊富な文化財について、適切に保存・継承し、県内外への魅力発信に取り組んだ。文化財を守り伝えてきたこれまでの地域の力が低下している現状がある中、今後は、文化財を確実に次世代に継承していくため、文化財の保存・活用に関する基本的な方向性を示す文化財保存活用大綱を作成し、総合的な取組を進めていく。

生涯学習社会づくり

県民の生涯学習を支援するため、学習情報提供システム「におねっと」を活用した講座情報の収集や情報発信に努め、講座情報の登録数は目標値を上回った。引き続き広報・発信に努めるとともに、団体・企業・行政等の多様な主体の情報交換やネットワークづくりに取り組んでいく。

図書館環境の整備と読書活動の推進

平成29年度に策定した「これからの滋賀県立図書館のあり方」に基づき、県立図書館の目指す姿を具体化するための5年間の行動計画を策定した。全ての県民が生涯にわたり読書に親しみ主体的な学びができるよう、図書館サービスの充実や市町立図書館との連携、子どもの読書活動の推進等、計画に基づく具体的な取組を進めていく。

【学識経験者からの主な意見】

- ・滋賀県は生涯学習の分野で先進的であり、評価が高いので、そうした良さをもっと発信していくべきである。(関連)
- ・読書について、学校段階が進むにつれて不読率が高くなっており、子どもの読書習慣を根付かせるために、まずは学校図書館の開館時間を確保し、司書の拡充を含め、本に親しむ環境づくりが大切である。(関連)